

インディーズ映画配給レーベル《MAP+Cinemago》が提供する、世界に羽ばたく新鋭監督揃い踏みの劇場公開ラインナップ！

映画感想レビュー&考察サイト「Cinemarche」を立ち上げ、映画ビー・ガン監督の話題作『凱里ブルース』（配給：リアリーライクフィルムズ他）を皮切りに配給事業に進出を始めた「**Cinemago**」代表・**出町光識**と、これまでアルゴ・ピクチャーズで数々の日本映画を手がけ、ベトナム映画『サイゴン・クチュール』や『ソン・ランの響き』などの作品を配給してきた、「**ムービー・アクト・プロジェクト(MAP)**」の代表・**熊谷睦子**とは、コロナ禍の自粛を強いられた期間に「**ジャパニーズ・インディペンデント映画の未来のために自分たちに何ができるか？**」について頻繁に意見を交わしてきました。そして当初より、熊谷が「MAP」の目標として掲げてきた「**映画の作り手、観客を育てる**」「**充実した製作環境を整える**」「**地域との連携**」等といった【**映画の「場」づくり**】に出町も共感をします。出町自身も、近年各地の映画祭に足を運び、監督としての才能を持った映画作家に何か応援したいと声をかけ続けていました。SKIP シティ国際 D シネマ映画祭2019では、**芳賀俊&鈴木祥**監督『**おろかもの**』（観客賞）と出会い、第15回大阪アジア映画祭では**アンシュル・チョウハン**監督『**コントラ**』（最優秀男優賞：間瀬英正）の作品性の高さに惚れ込み、歓喜しました。こうして熊谷と出町が**インディーズ映画の配給レーベル「MAP+Cinemago」としてタッグを組むことで、世界で活躍していく映画作家を、更に後押ししていくことを目標に活動していくことを決めました。**

また共同で立ち上げた、**Youtube** チャンネル「**マゴチャン MOVIE A GO GO**」では、**映画鑑賞の手引きとなる、【インタビュー・映画解説・エンタメ生配信】の3つを提供。**最新映画のおすすめ情報と、アーカイブを目的とした動画メディアとして、いずれは過去作も含めたインディーズ作家たちのための総合サイトを目指し、まずは「横須賀綺譚」の監督・キャストインタビューや、予告動画を解禁しています。

第1弾：『横須賀綺譚』（監督：大塚信一）2020年7月11日（土）より、ケイズシネマほか全国順次公開中

第2弾：『おろかもの』（監督：芳賀俊、鈴木祥）、2020年秋テアトル新宿/シネ・リーブル梅田（田辺・弁慶映画祭セレクション2020）にて公開

第3弾：『コントラ』（監督：アンシュル・チョウハン）は、2021年春ケイズシネマほか全国公開

その他：『宮田バスターズ（株）大長編』（監督：坂田敦哉）、『カラガラ』他森田博之監督作品特集、

井上森人監督の待望の長編・特撮怪獣映画が、鋭意脚本執筆中！

<作品スチール>



「横須賀綺譚」監督：大塚信一



「おろかもの」監督：芳賀俊&鈴木祥監督



「コントラ」監督：アンシュル・チョウハン



「宮田バスターズ」監督 坂田敦哉

<大塚信一監督のコメント>

この度、「MAP+Cinemago」の第一回配給作品となり嬉しく思っています。その経緯は電撃でした。7月11日の公開を控え、自粛期間が明けた6月1日から自主配給の宣伝活動を再開した僕に、レビューサイトの出町さんから電話がありました。一頻り、作品が気に入ったことを話された後、「配給」を請け負いたいと打診されたのです。公開の一ヶ月前です。

上映素材は既にDCP化しており「MAP+Cinemago」のロゴを入れる時間もお金ありません。それでもやる、と。作品を気に入り、横須賀綺譚を全国に広める使命に燃えていました。作品第一の情熱と、業界に新しい風を吹かせようとする熱意に打たれ、配給をお願いしました。

<「MAP+Cinemago」共同代表・出町光識のコメント>

映画の魅力の一つは、「人が人を撮る」ということ。被写体に恋し、それらと共に犯関係と結んだ先に、お互いの存在がボーダレスになる魅力がある。

インディーズ映画には、映画作家の熱量が如実に現れる。社会に対する鋭い眼差し、独自のアート感覚が、純度の高い作品を生み出す。映画作品がうねりを持ち、「自由」へと解放されていく。

作品を世に送り出す映画作家は、あたかも四角いリングの中央で立ち続ける格闘家だ。現代社会に挑む闘志に燃えた作家達のセコンド(配給)役を務めたい。この提案に真摯に耳を傾けてくれたのは、「MAP」の熊谷睦子さんだけだった。

いま新たに「MAP+Cinemago」として、多種多様な「ファイティング・スタイル」を考案し、格闘し続ける映画作家たちに寄り添っていく。それが「MAP+Cinemago」の使命だと考えている。

<「MAP+Cinemago」共同代表・熊谷睦子のコメント>

この度、出町光識さんからお声がけを受けインディーズ映画配給レーベルを立ち上げたのは、これまでアルゴ・ピクチャーズで20年、日本映画を中心に多くの映画配給宣伝などに関わる中で、映画界を支えリードして来た方々の後ろ姿を見ながら、また同世代の製作者と並走しながら、新たな時代の中で、自分に何ができるだろう？と考えたことでした。

フィルムからデジタルに移行し、国境を越えて多くの作家たちが交流しやすい状況になる中、日本にいる若手作家たちがもっと自由に、のびのびと製作に専念するために【映画の場づくり】をしていかないとダメになるという危機感をずっと感じていたからです。特にコロナという厄災は、映画館という映画を発表する場を一時奪いました。ですが、その光を消すことなく、上映を続けた劇場があったということから勇気をもらいました。

「映画は無くならない」それだけを信じて、ここから新たな光を発信することを誓います。

《MAP+Cinemago》のマニフェスト

映画の「場」づくり

- ・映画の作り手、観客を育てる
- ・充実した製作環境を整える
- ・海外との連携
- ・地域との連携
- ・企業との連携
- ・映画祭の企画
- ・映画遺産の継承

動画メディア【マゴちゃん MOVIE A GO GO】

★Youtube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCXQtCAAGkMPFPr-W5Gps5EQ/about>

最新映画のおすすめ情報と、アーカイブを目的とした動画メディア『マゴちゃん MOVIE A GO GO』。映画鑑賞の手引きとなる、【インタビュー・映画解説・エンタメ生配信】の3つを提供。

「インタビュー」では、映画監督やキャスト陣が、どのような気持ちで撮影現場に挑んでいるのかを調査。

「映画解説」は、映画ライターが歴代の名作映画から、傑作、珍作、B級カルト作品まで、わかりやすく詳細に学べるムービーコレクション。「エンタメ生配信」には、楽しいゲストを迎え、映画の未来について放談で語り合うバトル・シネマトーク。劇場公開の鑑賞前・後のいずれも楽しめる内容であり、また、動画配信を視聴する際にとっても役立つコンテンツをユーザーにお届けする。